

新生ふくしま復興推進本部に位置づけるプロジェクトチームについて

(仮称)復興対策推進
プロジェクトチーム(新設)

【参考】福島・国際研究産業都市構想
プロジェクトチーム(H26年2月設置済)

東日本大震災、福島第一原子力発電所事故から3年が経過し、避難地域を取り巻く状況は刻々と変化しており、時間の経過とともに生じる新たな課題への対応についても検討を進める必要がある。そのため、「(仮称)復興対策推進プロジェクトチーム」を設置し、特に避難者の現状を鑑みて重視すべき分野に関し、**将来を見据えた制度設計**や**財源確保**に向けて検討するとともに、**政府への政策提言**や**要請活動**に結びつけていく。

「廃炉を確実に進めるための放射性物質の分析」、「燃料デブリ等を回収する実証試験施設の整備」の推進と合わせ、国内外の産学連携と関連産業等の集積を促進するために国が設置した「福島・国際研究産業都市構想研究会」の検討への確実な対応が必要。

国の予算も見据えつつ、世界の英知の結集、県内企業の参入、財政支援、雇用への結びつき、必要な生活・交通インフラの整備等、浜通りの地域産業の再生を推し進める、実効性のある大胆な構想となるよう、積極的に提案する。

2つのテーマについて、部局横断的に検討

研究会の討議内容に合わせた検討を実施

【健康と安全・安心を守る】

- 保健・医療・福祉の施設・人材の確保
- 生活再建等の進展に伴う避難者支援策 など

【子どもを育む】

- 子どもを生み育てたいと思える環境づくり
- 子ども達の夢や希望を実現に導く教育 など

■研究会の開催とP Tの動き

- 【第1回】1月21日 立ち上げ
- 2月 4日 P T設置 (2月6日 第1回P T)
- 【第2回】2月17日 廃炉研究開発拠点及び関連する産学連携拠点のあり方
- 2月21日 第2回P T
- 【第3回】3月 7日 ロボットの開発・実証等のあり方
- 4月 9日 第3回P T
- 【第4回】4月14日 産学連携拠点について

※6月に取りまとめ予定

※今後、農林水産、再生可能エネルギー、インフラ等について討議予定

『新生ふくしま復興推進本部』が担う機能

◆目的◆ 全庁一体となった復興・再生の推進

